

1.令和5年度の重点事項について

(1)認知症施策について



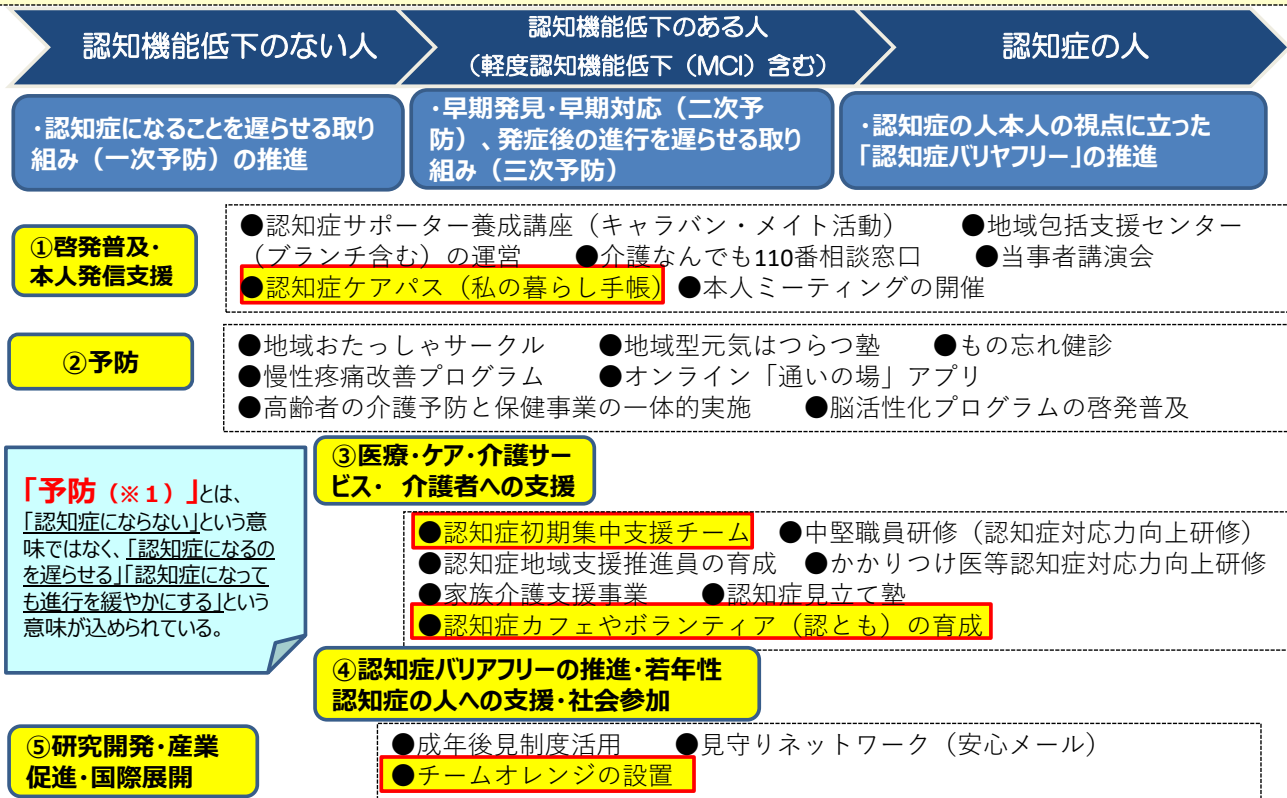
加賀市市民健康部介護福祉課

令和5年3月2日

加賀市の認知症施策全体について

●認知症施策推進大綱【基本的な考え】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防（※1）」を車の両輪として施策を推進



認知症の予防と備え:わたしの暮らし手帳(加賀市版認知症ケアパス)の啓発普及

1 これまでの取り組み

ダイジェスト版 (平成27年度)

- ・住民、介護サービス事業所、社会福祉協議会等と検討会を重ね『わたしの暮らし手帳』の目的、書き方、項目等をまとめたダイジェスト版を作成



第1版 (平成28年度)

- ・「これまで」「今」「未来」に向かってどう生きていくか書き示す『スターティングノート』として、わたしの暮らし手帳が完成
- ・寸劇を交えた啓発活動の開始



第2版 (平成31年度)

- ・終末期医療の内容を追加し、増刷
- ・寸劇の内容も変更 (実話をもとに作成)
- ・終末期医療等に関する勉強会の実施



第3版 (令和4年度)

- ・メディア (NHK、ケーブルテレビ、広報かが等) を活用した啓発活動を行うことで、市内外からの大きな反響があり増刷
- ・レイアウトの変更 (書きやすさ、見やすさ等の修正)



2 活動実績

①寸劇を通じた活動

年度	実施回数	参加した市民の数
H28	4回	275名
H29	22回	795名
H30	38回	876名
R1	20回	407名
R2	2回	24名
R3	3回	57名
R4	5回	114名

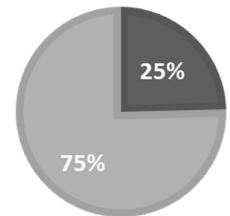
②その他

(10月時点)

- ・ NHKの番組(おはよう石川、おはよう日本)での放送(NHK放送後の問い合わせ実績：市内41件、市外102件)
- ・ 市のケーブルテレビ、広報かがの特集記事
- ・ 第一生命保険株式会社との共同セミナーを開催
- ・ 医師会、薬剤師会への周知および各医院への設置
- ・ 市役所・支所・各出張所への配置

わたしの暮らし手帳を知っていますか

■知っている ■知らない



③わたしの暮らし手帳の認知度

令和3年度 介護予防基本チェックリストより(市内70歳以上対象)
 回答者 8,306名の内『わたしの暮らし手帳を知っている』と回答したのは「2,047名(24.6%)」

3 活動の様子

参考



勉強会(在宅医療、終末期医療について)
 講師：大和(やまと@ホームクリニック)



検討会



寸劇全体の様子



寸劇の一場面
 (かがやき予防塾修了生による迫真の演技)

4 令和5年度の取り組み

介護保険サービス事業所でのわたしの暮らし手帳の啓発活動(案)

- 実施場所: 同意が得られた事業所
- 参加者: 同意が得られた利用者・スタッフ
- 講師: 認知症ケアパス検討会メンバー
- 内容
認知症ケアパス検討会メンバーによる「わたしの暮らし手帳」の説明および書き方の補助。
何度も繰り返し、書き加え、更新していく。

出向き講座



ケアパス検討会メンバー



デイサービス等

- メンバー: **かがやき予防塾修了生**
地区高齢者こころまちセンター
社協 等
- 活動内容:
・啓発活動について検討
・地域のサークル、サロンに出向き啓発活動 等

利用者にとって

- ・ 自分自身の今までとこれからのことを考えることで生活の備えになる。

介護職員にとって

- ・ 本人の思いを聞く機会になる
- ・ 本人の思いを個別援助計画作成やケアプランに、反映することができる
- ・ 介護職員に認知症ケアパスを知ってもらう機会になる

第24回 石川県バリアフリー社会推進賞

参考

活動部門 優秀賞 受賞

受賞団体: **かがやき予防塾修了生**

石川県バリアフリー社会推進賞とは

石川県では、県民だれもが自らの意志により自由に行動し、住み慣れた地域に住み続けられ、社会のあらゆる分野の活動に参加することのできる障壁のない社会(バリアフリー社会)の実現に向け、平成11年度からバリアフリー社会推進表彰制度を設けている。先駆的、模範的なバリアフリー社会づくりへの取組や活動を行っている個人や団体を、「施設部門」「活動部門」「福祉用具部門」のそれぞれの部門において、表彰するものである。

令和5年2月16日
市村氏が石川県庁にて
授賞式参加



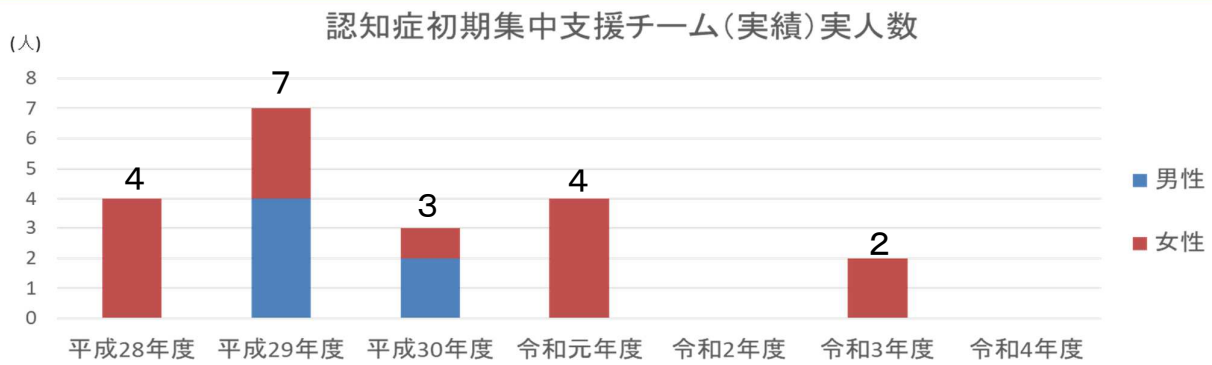
今後、たとえ認知症になったとしても…

たとえ自分自身の思いが伝えることが難しくなったとしても…

『わたしの暮らし手帳』を書いておくことで、
加賀市民一人ひとりの「〇〇したい!」が叶えられるよう

今後も、継続して活動を行っていきます

早期発見・早期対応 認知症初期集中支援チームの設置



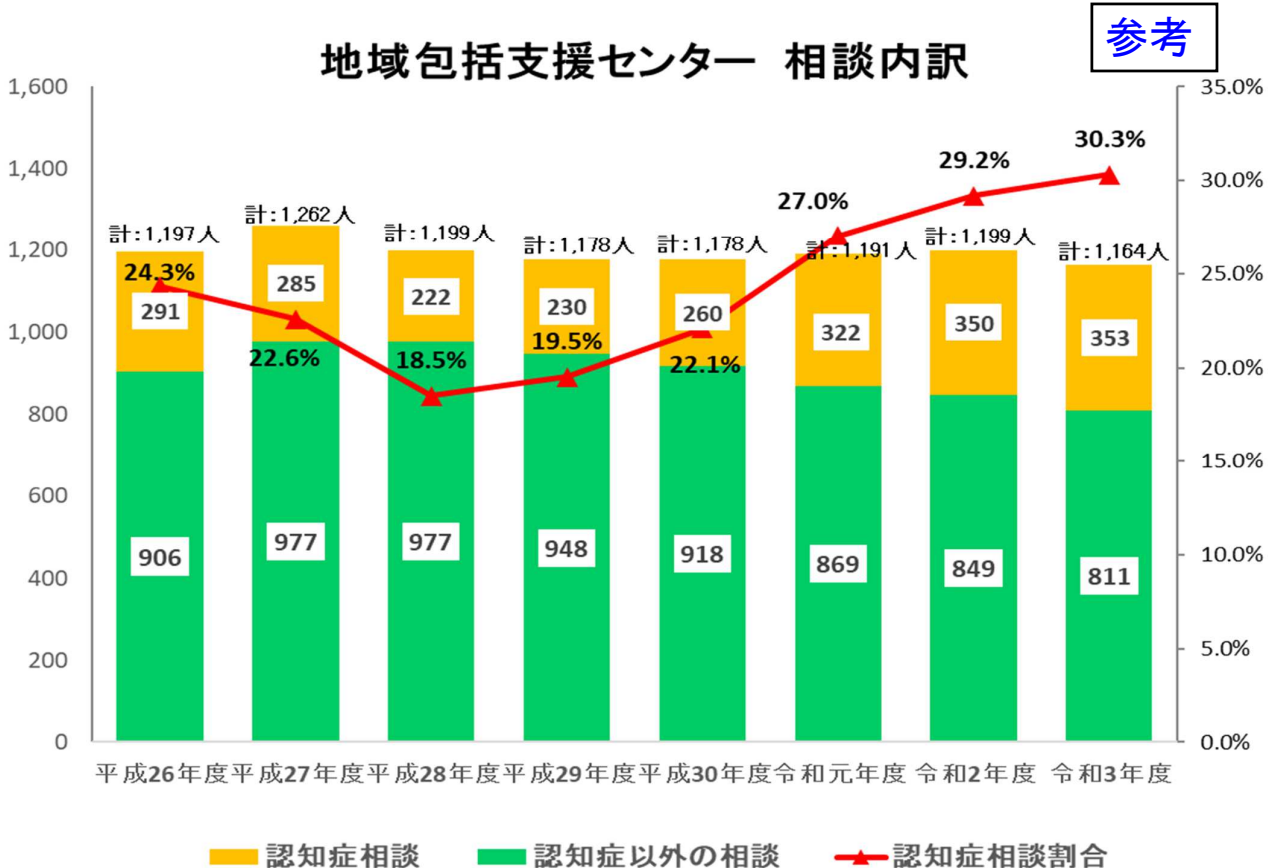
【相談の状況】

- ・設置当初からの相談件数は全体で**20件**（男性：**6件**、女性：**14件**）であった。
- ・相談者は、介護保険事業所等が**10件**、地域包括支援センターが**10件**であった。
- ・世帯構成としては、独居が**8件**、家族と同居が**7件**、高齢のみ夫婦が**5件**であった。
- ・相談時に未申請の方は**9件**であったが、チーム員の介入により、**4件**（**44.4%**）がサービスの導入につながった。

【課題及び取り組み】

- 認知症初期集中支援チームの支援が必要な人に届いていないのではないか。
→医師会やコメディカルを含めた「認知症支援体制検討会」にて、課題における解決方法について、意見交換し体制強化を図る。

早期発見・早期対応 認知症初期集中支援チームの設置



【目的】

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することを目的とする。

【認知症初期集中支援チームとは】

複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的（おおむね6ヶ月）に行い、自立生活のサポートを行うチームをいう。

配置場所

地域包括支援センター等

（診療所、病院
認知症疾患医療センター
市町村の本庁）

認知症初期集中支援チームのメンバー



【対象者】

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のいずれかの基準に該当する人とする。

◆医療サービス、介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する人

- （ア） 認知症疾患の臨床診断を受けていない人
- （イ） 継続的な医療サービスを受けていない人
- （ウ） 適切な介護保険サービスに結び付いていない人（エ） 診断されたが介護サービスが中断している人

◆医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している

◆地域包括支援センターに平成29年3月設置。依頼に応じて、チーム員会議を開催し、専門医のアドバイスをもらいながら支援方針を決めていく。また、その結果については、主治医へ報告し、医療と介護が連携して認知症の人とその家族の生活を支えていく。

◆チーム員は、地域包括支援センターに2名配置。

◆専門医（白崎医師（脳外科医）、長谷川医師（精神科医）、喜多医師（精神科医））は3名。

新規

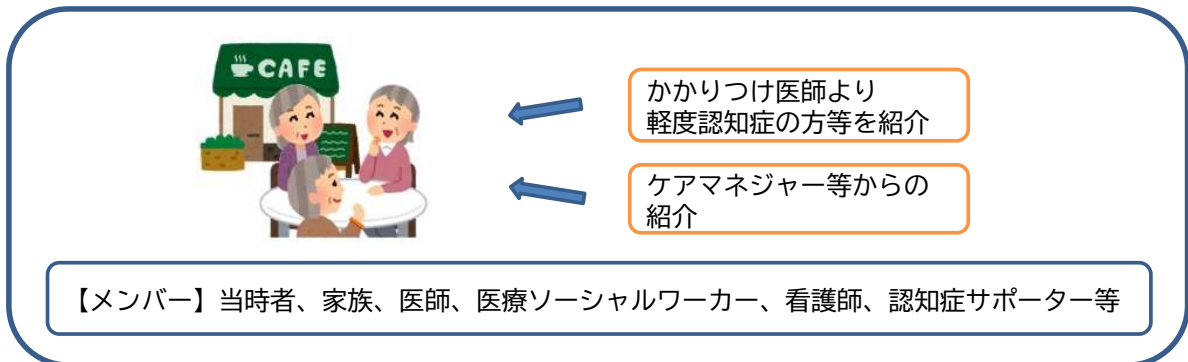
介護者のへの支援 認知症の人の家族に対する支援事業（認知症カフェ）

【事業の目的】

認知症の人及び家族、専門職、地域住民がつながり、支援することで、ピアカウンセリング（同じ背景を持つ人同士が対等な立場で話を聞きあうこと）及び家族の介護負担を減らす。

【事業イメージ】

- 軽度認知障害（MCI）の診断や物忘れ健診等受診後の経過フォロー対象者に対して、本人のニーズと介護保険サービス等の既存サービスが合致せず、支援につながらない不安な期間（空白の期間）がある。
- そのため、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場を設置する。



【期待される効果】

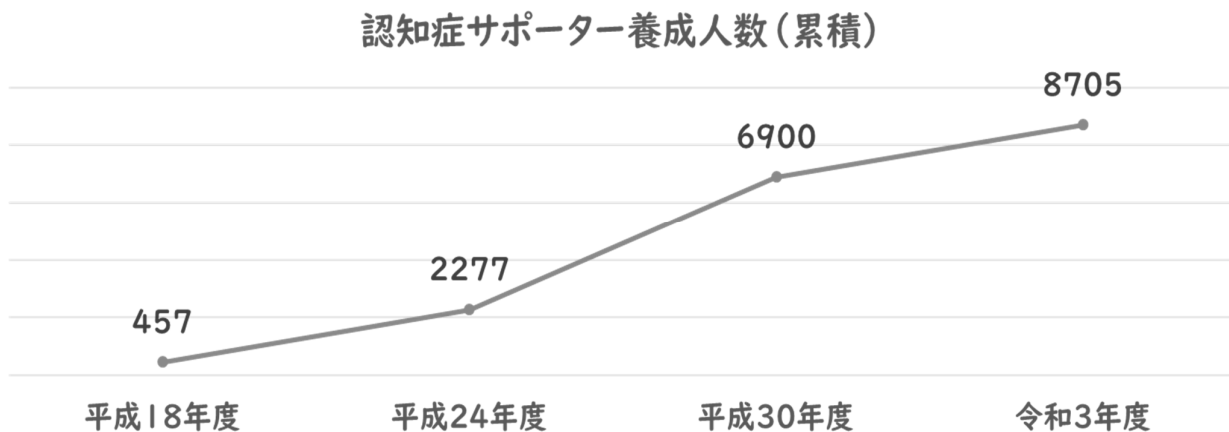
- 認知症当事者が本音を話し合うことが出来るようになり、今後の生活の希望や新たな活動につながる。
- 家族にとって相談の機会となり、認知症の介護による地域からの孤立を防ぐことができる。

1 チームオレンジ発足の背景

①認知症サポーターの養成

認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し偏見を持たず、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者のこと。

【加賀市の実績】



※新型コロナウイルス感染症感染拡大前は、年間30回、1000名近くの認知症サポーターを養成

②認知症サポーターの活動発展

認知症サポーター養成講座受講後、自身のこととして捉え「何かできないかな」と認知症サポーター自身が、地域でカフェやサロンの開催したり、傾聴や見守りなど活動を通して、認知症の人とその家族が住みやすい地域づくりがスタート!

【加賀市での活動例】



加賀サロン



介護者相談会(アマリスの会)

これらを背景に

「チームオレンジ」を全市町村で整備していくことに

※【認知症施策推進大綱・KPI/目標】 2025(令和7)年全市町村で、整備

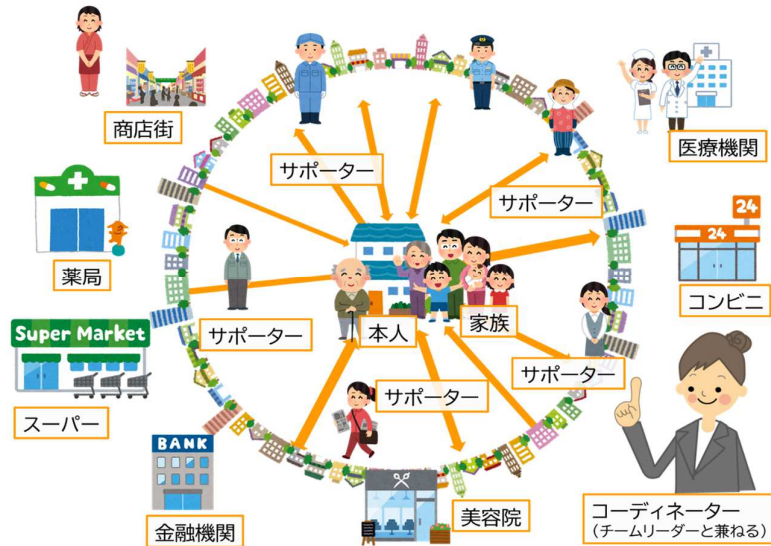
【チームオレンジとは】

認知症の診断の早期の空白期間などにおける心理面・生活面の早期からの支援として、コーディネーターを配置し、地域で把握した認知症の悩みや家族の身近な生活ニーズ等と認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組み

2 令和5年度の取り組み

【加賀市のチームオレンジの体制】

- 加賀市は、本人本位を視点に、かかわる人と共に、本人の望む暮らしにむけて考える体制ができている。
- 本人の意向を中心におき、かかわるチームメンバーの一員として認知症サポーターも加わり、更なる認知症の人とその家族のために暮らしやすい地域をつくっていく。



イメージ図